

「葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想 素案」に対する意見募集の結果

東京都は、平成30年11月7日（水）に、「葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想 素案」を発表し、東京都ホームページの掲載等を通じて、広く都民の皆様のご意見を募集しました。

貴重なご意見を多数いただき、誠にありがとうございました。

ここでは、お寄せいただいた主な意見の概要と、それに対する東京都の考え方をご紹介させていただきます。

1 意見募集の期間と件数

(1) 募集期間

平成30年11月7日（水曜日）から平成30年12月6日（木曜日）

(2) 意見総数

79通 166件

(3) 集計方法

1通のなかにある、ご意見と考えられる部分を件数としてカウントし、同様の趣旨と考えられるご意見については、要約の上、まとめて「ご意見（概要）」として掲載しています。

ご意見（概要）	東京都の考え方
葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想 素案に関する意見 163件	
基本構想全体について（3件）	
<p>30年の実績、経験に基づいて検討された内容で、賛同する。</p> <p>実行的な取組を行っていくため、都政、企業、教育機関、市民の参加に向けたアピールや、運営者の連続性の担保、生物展示の必要性に対する姿勢を明確にし、実行性のある構想とすべきである。</p>	<p>基本構想で新たな水族園像を明確にした上、その実現に向けて、検討を進めてまいります。</p>
第3章 葛西臨海水族園の課題について（7件）	
<p>機能、施設に関する課題はその通りだと思う。来園者を引き付ける魅力として展示も課題であり、新しく魅力的で、新たな理念を体現できる展示を開発してほしい。</p>	<p>展示は水族園に欠かせない機能であり、人の営みと海との関係性への理解を深め、興味・関心を高めることができるよう、検討を進める必要があると考えています。</p>
<p>葛西臨海水族園は、エンターテイメント・遊戯施設ではなく、来園者を増やせばいいものではない。現状のように、安定的に来園者がいることは望ましいことである。来園者数を伸ばすのではなく、メンテナンスに体制や費用をかけ、楽しめる施設を確保すべきである。</p>	<p>長期的・継続的な管理運営のため、来園者を増やす取組は必要と考えています。</p> <p>経費については、削減につながる技術開発を検討する等、引き続き取組を進める必要があると考えています。</p>
<p>経費の削減に賛成。目の前の海水の活用や先進技術の活用で、海水コストの削減を行うべき。</p>	

	ご意見（概要）	東京都の考え方
第4章 1 新たな水族園像について（22件）		
	<p>東京都の新しい水族館として恥ずかしくない立派な理念であり、次世代に向けた新たな水族館像に共感する。新たな水族館を目指すために挑戦し、大切にしていることを見直し、進化して、あらゆる人に親しみやすく、長く愛される水族園になってほしい。</p> <p>子どもにとっての食育の場や発見・学びの場、世界に対して東京湾の生態系を紹介し、魅力を発信する場等となり、葛西の地の利を生かした環境教育拠点となるよう力を入れるべき。</p> <p>水族館はアミューズメント施設ではなく、自然科学の学習の場であり、博物館の一つである。その精神の具現化は公共水族館の役割である。</p> <p>現在の水族館ができた当初、東京湾の身近な生物の生態を見せる新しい工夫や、美しい水族館のあり方に敬服した。建設当時の展望が無駄にならないことを祈る。</p>	<p>新たな理念については15ページに記述していますが、今後は、生き物の多様さや豊かさに留まらず、持続可能な社会の実現に貢献することを重視した長期的、継続的な取組、水界を含めた海の文化や歴史を伝えること、東京湾に面する立地や水族園という施設の魅力を広めることが必要と考えます。</p> <p>こうした考えの下、新たな理念と行動規範の実現に向けて、検討を進めてまいります。</p>
	<p>機能の再構築について共感する。提示された機能を発揮するようにしてほしい。</p>	<p>機能については、16、17ページのとおり、6つの機能として再構築し、全てを有機的につなげた取組となるよう、検討を進めてまいります。</p>
	<p>時代に合わせた更新や老朽化への対応は必要であり、提示された施設性能を進めてほしい。子供や障がい者が入りやすい水族館となるため、バリアフリーの拡充や通路を広くして水槽を観やすくするべきである。</p>	<p>施設性能については、18ページのとおり、誰もが使いやすく魅力的な施設、機能を発揮させるための性能、メンテナンス性能の確保、環境負荷の低減の視点に留意し、新たな水族園像の実現に向けて老朽化やアクセシビリティの改善が図れるよう、検討を進めてまいります。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>収入安定のため、テーマパーク的な要素を入れたり、演出家や専門家の力を借りた企画や運営等で来園者の満足度を高め、集客効果やリピート率を上げるべきである。</p>	<p>管理運営に当たっては、19 ページのとおり、来園者増加、情報発信、連携強化、経営の視点に留意し、新たな水族園像の実現に向けて、来園者の満足度を高めるとともに適正な利用料金の検討を進めてまいります。</p>
	<p>リニューアルしても、利用料金は現状維持かそれ以下にして、庶民にとっての魅力を維持すべきである。値上げをする場合にも、大人の料金のみを対象とし、子供や障がい者への低料金は維持すべきである。</p>	<p>その際、水族園の本来機能が妨げられないよう考慮しながら、検討を行ってまいります。</p>
	<p>インバウンドやウエディングは大切だが、本来機能の充実を妨げないようにすべき。</p>	

	ご意見（概要）	東京都の考え方
<p>第4章 2 実現に向けた進め方に関する意見（79件）</p>		
	<p>施設に関する課題から見て、改築に賛成である。建てる場所は、現在の園と同じ場所がよく、美しさを損なわずに改築を行うことを望む。</p> <p>一般的には、建替え、改築、改修等の区別がつきづらい。現在の表記は誤解を受けやすい表現となっており、適切な表現に改めた上で、パブリックコメントもやりなおすべきである。</p> <p>長く都民や近郊の市民に親しまれており、建築学的、文化的価値も高く、海外からも高い評価を受ける既存施設の取り壊しに反対である。</p> <p>既存施設は世界に誇る名建築で、繊細なディテールとエリア全体のデザインの破壊は、日本建築文化への冒瀆である。</p> <p>コスト面の苦労も予想されるが未来へ残す価値があり、展望レストハウスとともに、都が守るべき建築群である。</p> <p>東京湾に連続する水盤とガラスドームの景観は、周辺の自然環境と一体となっており、エリア全体の環境デザインを維持すべきである。</p> <p>持続可能な発展を行う観点や改築による環境の負荷、多額の費用面からみて、既存施設全体もしくは一部の保存に向けた模索を行い、施設を巨大化させず、改修や増築、改装などの他の手法により対応を行ない、既存施設の継続利用や、新施設の建設後も既存施設が利活用されることを望む。</p> <p>オリンピック等で莫大な建設費をかけるなか、さらなる負担を抱え込むのは避けるべきである。</p>	<p>基本構想素案で記述した「改築」とは、現在の水族園地内に、既存施設とは別の建物を建築し水族園機能を移すことですが、建築基準法の改築と同じ意味を指すものと誤解を招いてしまいました。基本構想においては、「改築」という表現を修正しています。（修正したページは、目次、15ページ、20ページ、21ページ）</p> <p>水族園は、オフィスビル等と異なり、展示水槽や配管等の内部造作物が建物本体と一体化している特殊な施設です。展示水槽裏側は、ろ過設備等の大型タンク類、水槽とタンク等をつなぐ無数の配管類が密接した状態で配置されており、目視による点検は限界があります。現在、漏水の原因究明や処置に苦慮しているほか、地下ピットの排水ポンプの不具合も見受けられ、原因を正確に把握するには展示水槽の水を抜き、調査する必要があります。</p> <p>しかし展示水槽の水を抜くためには、展示している生き物を仮設水槽に移すか他の飼育環境の整った場所に移動させることが必須です。仮設水槽の設置には、相当の敷地や設備、相応の経費を必要としますが、生き物を継続的に、確実に飼育するための環境整備は極めて重要となります。</p>

ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>一般的に、大規模改修工事に当たっては、施設や設備の状態を正確に把握した上で、改修内容、工法、工期、費用等を決定する必要がありますが、現状では改修内容等を見通すことが極めて困難です。</p> <p>展示水槽の水を抜くことは、既存施設全体に影響する大規模工事であり、数年に亘る休園期間を伴うことが想定されます。長期に亘る休園は、水族園が担う役割を果たすことができないだけでなく、経営上、運営上も大きな課題となります。</p> <p>さらに生き物を飼育、繁殖する水族園として、生き物の「いのち」の重要性を認識した上で、適切な方法を検討することは不可欠です。</p> <p>こうした状況と、他の水族館の事例、都立水族館の変遷を参考に、水族園機能を移すことを基本に検討を進めることとしたものです。</p> <p>今後、ライフサイクルコスト、官民連携方法と合わせて、新たな水族園の規模、手法等を検討してまいります。</p> <p>既存施設については、水族園機能を移設後、施設の状態等を調査の上、そのあり方について検討しますということ、21 ページに追記しました。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
第4章 3 検討の進め方に関する意見（17件）		
	<p>都は基本テーマの決定と最低限の整備に費用をかけ、実際の運用の企画、開発、投資は企業にさせ、収益を確保させてはどうか。</p> <p>施設計画は、専門家と都民の意見を交え、行政と都民双方が納得いく結論を出すべきである。</p> <p>既存施設の設計者に敬意を払い、引き続き計画、設計、デザイン、設計監理等に関与させるべきである。</p> <p>原設計者との相談は、契約の下に行われるべきで、本来の持続可能性社会のために、発注者・設計者・施工者は持続的に続くべきである。</p>	<p>21 ページのとおり、新たな水族園に必要な設備・施設等の具体的な規模や手法については、ライフサイクルコスト及び官民連携方法と合わせ検討を進めてまいります。この検討に当たっては、外部有識者による検討会を設置することとしています。</p> <p>葛西臨海水族園は、社会教育や希少種保全等を重視しつつ、レクリエーション性能を活かした取組を進める必要があると考えております。こうした機能を発揮できるよう、官民連携方法についても検討してまいります。</p> <p>計画・設計等の委託に当たっては、都の契約手続きに則り、適切に行ってまいります。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
参考資料に関する意見（展示に関すること）（8件）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類の展示が欲しい。 ・調教をしない生態説明であれば、海獣を展示してもよいのではないかと。 ・マグロを継続して新たに水槽をつくるのであれば、現状を上回る魅力が必要である。 ・葛西の目玉であるマグロは残した方がいい。 ・イワシの群れ展示があると嬉しい。 ・展示等のレベルアップを行う方がいい。 ・子どもの頃と成魚とで見た目が変わるものを比較展示すると面白い。 ・新たな展示の開発は、今からでもできると考える。 	<p>新たな水族園の検討に当たり、参考とさせていただきます。</p>
取組に関する具体的な提案等（27件）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランを園外、園内で共有させ、水槽も設置し、魚も見えるレストランとすべき。 ・海が見える海岸でバーベキュー会場を整備してはどうか。 ・多国籍の料理を食べられるようにレストランの数を増やし、看板のオリジナルメニューを提供してはどうか。 ・現施設的设计者や建設当時の歴史や写真、図面を展示し、カフェにしてファンを再構築してはどうか。 ・園内で持ち歩きファーストフードを提供してはどうか。 ・園内にペットボトルの自動販売機を設置してほしい。 ・オリジナルグッズをそろえたショップを充実させてはどうか。 ・AR、MR、プロジェクションマッピングなどのテクノロジーを使用し、楽しみながら勉強できる場としてはどうか。 ・安全面を考慮しつつ、全ての言語に対応した音声ガイドを用意し、海外の来場者を増やしてはどうか。 ・フェイスブックやインスタグラムを開設し、知られる場を増やしてはどうか。 ・夕方からガラスドームに魚を映し、最後まで楽しんでもらえる水族館にしてはどうか。 ・休憩スペースを増やしてはどうか。 ・歴史ある家具（ベンチ）への変更をしてはどうか。 	<p>新たな水族園の検討に当たり、参考とさせていただきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
取組に関する具体的な提案（つづき）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・観察シートがあるといい。 ・教育を行う施設として周知し、寄付を集め、動物園サポーター制度を活用して経営の負担軽減に活用すべき。 ・携帯アプリを活用し、生き物の解説が読めるサービス等を行うべき。 ・子ども、大人を対象とした体験型イベントがもっとあった方がいい。 ・子ども受けを考え、期間限定でテレビ番組や話題の生き物を取り入れてはどうか。 ・水族館と海とを直結させ、イベント等により海との触れ合いの場を作るべき。 ・地域の学生に対して職業体験をさせてはどうか。 ・来園者が一緒に西なぎさでフィールドワークがしたい。 ・話題提供のためにグルメイベントを定期的で開催してはどうか。 ・ホームページのデザインが古いため、変更してはどうか。 ・サポーターやボランティアの充実のため、貢献度に応じたサービスを提供すべき。 ・スタッフのユニフォームも格好よく変更してはどうか。 ・世界に発信し、響くような名称とすべき。 ・駅から水族園、鳥類園、観覧車までを、わくわくさせるような動線とすべき。 	<p>新たな水族園の検討に当たり、参考とさせていただきます。</p>
その他の意見 3件		
	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な意見については、書いてまとめた人の所在や氏名が公表されるべきである。 ・パブリックコメントに関するアナウンスが非常にわかりづらく、SNS等による発信も行うべき。募集期間も短かった。 ・残すべき建築と改築すべき建築の判断を、都民を含む一般の方々に聞くことが必要である。 	<p>ご意見は、関係部署とも共有させていただきます。</p>